

新型コロナウイルス（COVID-19）による農業・食料分野への影響と動向 (2020年7月)

1. 国際的な動向

- WFPは6/29に「WFP Global Response to COVID-19: June 2020」を発表。WFP展開国（83か国）では急性食料不足人口が1.49億人から2020年末には2.7億人に増加、低中所得国で非正規労働者の収入が82%低下と予測し、COVID-19対応で49億ドルの資金が必要とアピール。
<https://ja.wfp.org/news/world-food-programme-assist-largest-number-hungry-people-ever-coronavirus-devastates-poor>
- FAOは7/13にIFAD、UNICEF、WFP、WHOと共同で「The State of Food Security and Nutrition in the World 2020」を発表。慢性的な飢餓人口は2014以降増加に転じ過去5年間で6,000万人増加、COVID-19により世界のFood Systemの脆弱性を高め、SDG 2（飢餓をゼロに）の達成の見通しが立たないと指摘。
<http://www.fao.org/japan/news/detail/jp/c/1297823/>

2. 農業生産の動向（2020年7月）

主要穀物（小麦、メイズ、コメ、大豆）の国際需給概況は、メイズ、コメ、大豆を中心に生産状況は良好で、19/20年度生産予測では需給上の問題は見られない。2020年末時点での上記穀物の予想値（FAO、米国農務省（USDA）、国際穀物理事会（IGC）の平均）は、供給3,582百万トン、使用2,730百万トン、在庫850百万トンで、期末在庫率（S/U）は31.1%と引き続き高水準を維持（AMIS Crop Monitor July 2020）。

（1）サブサハラアフリカ地域の農業関連概況

- 農業生産は、作付け、生育、収穫とも概ね順調。ただし、サバクトビバッタの影響と洪水被害に見舞われる東部アフリカ（スーダン、南スーダン、エチオピア、ケニア、ソマリア）は今後の動向に留意が必要（別添図1）。また、COVID-19による生産への影響がウガンダ（行動制限と多雨による食料不安）、ルワンダ（圃場へのアクセス）、ジンバブエ（投入資材の調達への障害）他で報告されている（GEOGRAM Crop Monitor July 2020, FEWS Net July 2020）。
- COVID-19感染拡大による影響として、国境を跨ぐインフォーマルな流通の減少（ウガンダ・DRC間）、農業労働者の国内外の移動制限による生産量低下と収入減（エチオピア・スーダン間、ナイジェリア・ニジェール間）、労働需要低下に伴う賃金（非農業労働機会）の半減（チャド）等の負の影響が数多く見られるが、行動制限による家畜飼料の価格上昇による貧困家庭の収入増（ニジェール）も報告されている（FEWS Net July 2020）。

(2) 南アジア地域の農業関連概況

- 殆どの国で冬春作の収穫は良好で、春夏作の作付け、生育も概ね順調。しかし、ネパール及びパキスタンでは COVID-19 対応の行動制限により投入資材の供給と適期作付けに影響が出ており、今後の農業生産への影響に注視が必要。また、インド・パキスタン国境地帯のサバクトビバッタについては7月に入りソマリアから大群飛来の可能性が高まっており、引き続き警戒が必要 (GEOGRAM Crop Monitor July 2020, FAO Locust Watch 13 July 2020)。

3. 食料価格の動向

(1) 主要穀物/肥料の国際取引価格

- 主要穀物の国際価格は過去5年間で最低水準で推移 (International Grain Council 25 June 2020、別添図2)。コメは、旺盛な需要と3月末のベトナム禁輸措置 (解除済み) の影響で前年比約3割高で推移してきたが、6月はやや価格が低下傾向にある (別添図3)。

小麦	今年度は豊作が予想されており、更に北半球の収穫時期によって5月以降、価格が低下している。
メイズ	輸出価格は4か月連続で低下してきたが、悪天候予測等で6月はやや上昇。国際的に十分な供給量があり、前年比較では価格は低位。
コメ	3月末のベトナムの輸出規制で価格が高騰したが、措置解除後は4月をピークに低下し現在はやや低下傾向。
大豆	COVID-19による需要減少や主要輸出国での十分な生産量予想により価格は若干低下傾向。

(単位: USD/mt)

	月平均 (2020/6)	四半期平均 (2020/4-6)	先月比	前年同月比
小麦	198.42	207.72	-3.6%	-3.7%
メイズ	147.99	146.27	2.8%	-24.1%
コメ	520.00	531.33	2.0%	23.8%
大豆	367.80	362.74	2.2%	2.5%

(World Bank Commodity Markets July 2020)

- 農業関連指数は安定的に推移 (World Bank Commodities Price Data July 2020、別添図4)。肥料は種類により動きが異なるものの、全体では0.9%の下落。懸念された価格の大幅上昇は見られない。
- 低迷していたエネルギー価格は4月以降上昇。2020年1月段階の価格の2/3程度まで回復 (別添図4)。

(2) 各地域の食料価格 (2020年7月)

東部アフリカ	COVID-19 によるロックダウンや混乱が落ち着く傾向。収穫を迎え 6 月の穀物価格は減少傾向。
西部アフリカ	COVID-19 の混乱が落ち着く傾向。十分供給十分があり穀物価格は全体的に横ばい。内戦発生国で市場や貿易に悪影響を及ぼす可能性あり。
南部アフリカ	穀物価格は低下傾向。消費者の所得減少により食料アクセスの低下が見られる。
東 ア ジ ア	COVID-19 によるサプライチェーンの混乱でコメの価格が 3~4 月にかけて高騰したが、その後は横ばいで推移。
アジア & 欧州	収穫時期を迎え小麦の輸出価格は低下傾向。前年と比較すると価格は高い傾向。
北米 & カリブ	COVID-19 によりメイズ価格が 3-4 月に高騰したが、5 月以降は低下。海外需要や季節性（収穫前）により豆の価格は記録的に上昇。
南 米	COVID-19 によるコメの価格高騰は落ち着いたが、小麦の価格は季節性（収穫前）により依然として上昇傾向。

(FAO FPMA July 2020)

(3) 各国の食料価格 (2020 年 7 月)

- 南半球での好調な収穫、パニック買いの収束により COVID-19 の影響が軽減され、3~4 月に見られた各国での食料価格の上昇が全世界的に改善。
- その他、食料価格の高騰によりアラートが出ている国/作物は以下のとおり（下線は COVID-19 が食料価格上昇の一因と指摘されている国）。

High	コロンビア (コメ)、 <u>ハイチ (穀物)</u> 、 <u>南スーダン (主食)</u> 、 <u>スーダン (主食)</u> 、ジンバブエ (食料全般)
Moderate	アルゼンチン (食料全般)、 <u>バングラデシュ (コメ)</u> 、 <u>ブラジル (穀物)</u> 、 <u>カザフスタン (小麦)</u> 、 <u>タジキスタン (小麦)</u> 、 <u>タイ (コメ)</u>

(FAO FPMA July 2020)

4. 農業・食料分野での措置 (2019 年 11 月~2020 年 6 月)

COVID-19 拡大に伴う政策措置として、各国では感染を抑制するための**保健医療政策**（国内、国際検疫、医療体制の強化、公衆衛生の指導強化）、**ソーシャルディスタンス強化**（国内、国際、ロックダウンや学校休校などの移動規制、行動規制）、感染被害や休業措置に伴う**困窮世帯や産業活動の低迷等に対する財政措置**（休業補償、所得補償、各種社会保障）、**経済活動低迷に対する金融緩和措置**などが講じられている。

農業活動に関連する**生産現場、国内流通、国際流通、消費段階**で講じられた**政策措置**は以下のとおり。

影響	生産				国内流通					国際流通				消費								
	> 農業資材の不足 > 運転資金不足 > 労働力の不足				> 流通規制 > 運転資金の不足 > 労働力の不足					> 輸入制限 > 輸出制限 > 運転資金不足 > 労働力不足				> 食品価格の高騰 > 購買意欲の減少								
講じた対策	資材	税制	農家向け金融	補助金	流通規制	価格支持	事業者向け金融	流通加工支援	小規模市場	輸入規制	輸入促進	輸出規制	輸出促進	税制	食料配給	現金給付	公共料金	食料備蓄	価格調整	給与補填	雇用対策	栄養改善
アジア	3	11	44	5	38	10	3	3	6	9	16	14	0	12	23	29	5	9	14	13	10	14
アフリカ	8	11	34	3	31	5	18	6	6	6	1	2	0	4	24	27	8	7	7	19	4	24
中南米	2	4	10	2	6	4	0	1	8	2	1	1	0	4	21	15	1	0	4	12	2	1
北米	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0
欧州	2	9	50	6	6	2	18	1	2	5	1	4	0	10	10	22	2	0	4	26	17	8
オセアニア	4	1	3	2	0	2	0	0	0	0	4	0	1	0	0	1	0	1	2	2	1	0
合計	19	36	146	19	81	23	39	11	22	22	23	21	1	30	79	95	16	17	31	73	34	47

(出典：FAO-Fapda <http://www.fao.org/in-action/fapda/tool/index.html>)

上記から見られるように、地域は異なっても多くの国で講じた施策は類似するものが多い。

- **生産支援**：流通規制の影響で収入が減少した農業者に対する低利融資（ザンビア、ブルキナファソ等多数）、アクセスが難しくなった農業投入財に関する支援（ケニア、ウガンダ等）が見られる。
- **国内流通支援**：流通規制が多くの国で講じられた結果、農産物流通においてネガティブな影響が発生。これらに対する措置として政府買い上げ等を通じた農産物の価格調整や事業者向けの低利融資が行われた。さらに移動規制のある中で地場産品の流通・販売を支援するためのローカルマーケット、ファーマーズマーケットの整備も行われた（ナイジェリア、ルワンダ、ウガンダ等）
- **国際流通支援**：感染抑制の観点から輸入規制、食料安全保障に対する懸念から自国農産物の輸出規制（アルジェリア等）が行われる一方、食料輸入国では基礎的な食料や物資を確保するための政府の支援（政府調達など）が行われた（エジプト、ナイジェリア、ブルキナファソ、モロッコ等）
- **消費支援**：自粛政策に伴う雇用・所得減少に対して雇用対策・給与補填を行うとともに、食料安全保障の観点から基礎食料の備蓄や価格調整（アルジェリア、ブルキナファソ、ルワンダ等）が行われた。特に脆弱な階層に対しては食料配給や現金給付などの社会保障措置が講じられるとともに、特に栄養課題が深刻なアフリカ・アジア地域では栄養改善のための取り組みも行われた（サプリメント、栄養指導、食料配給など）

5. JICAの取組

(1) COVID-19による農業分野の影響調査（質問票の分析）

- 5月前半にアフリカを中心に稲作（CARD）、市場志向型農業（SHEP）、栄養（IFNA）の実施中案件を対象に質問票による現況調査を実施。回答（農業普及員や農家を中心に448件）の分析結果は以下のとおり（詳細は別添スライド1）
 - ✓ 生産者（農家）の生計への悪影響は既に表れており、今後栄養不足や次期作へ支障を来す可能性あり。
 - ✓ 食料品のマーケット価格が上昇。それによる支出の増加が既に発生。
 - ✓ 農業投入財や労働力の減少による生産量の減少が一部の国で発生。
 - ✓ 販売価格の減少による所得の減少が一部の国で発生。特に、生鮮食品（野菜・果物）への影響が大きい。

（2）COVID-19に対するJICAの農業セクターの協力

上記動向を常に注視しつつ、状況に応じて有効性の高い支援をタイムリーに展開していく。現在の取組と方針は以下のとおり。

① 緊急支援（必要な支援を迅速に）・短期的支援

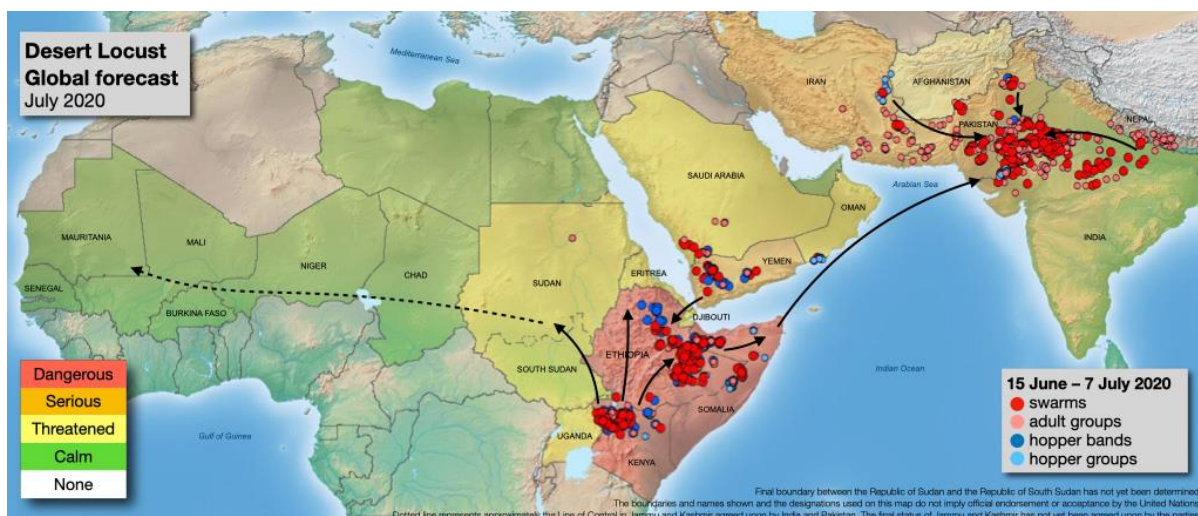
- 実施中の案件を通じて、農業資材や農業普及用タブレット等の供与、栄養改善・啓発活動、COVID-19感染拡大防止に資する物資の供与などの支援を実施する（全世界的に出来ることから支援を開始）。
- サバクトビバッタに対する支援も検討中（被害を受けた農民の生計回復支援、バッタ飛来時に備えたPreparedness支援）
- 次期作の安定的な農業生産、食料安全保障・栄養改善の推進、生計向上につながる支援を検討中（他の援助機関との連携を模索中）。

② 中・長期的協力

- 各国及び域内の食糧自給率向上やSupply Chainの短縮化を含め、農業・食料安全保障・栄養のレジリエンス向上につながる支援を実施する。
- Supply Chainの再構築・短縮化とデジタル化の加速により、開発途上国の農業を含む経済構造の変化をもたらす可能性あり。今後を予測するのは難しいが、将来を見据えた協力も検討していく考え。

以上

図1 サバクトビバッタ移動予想

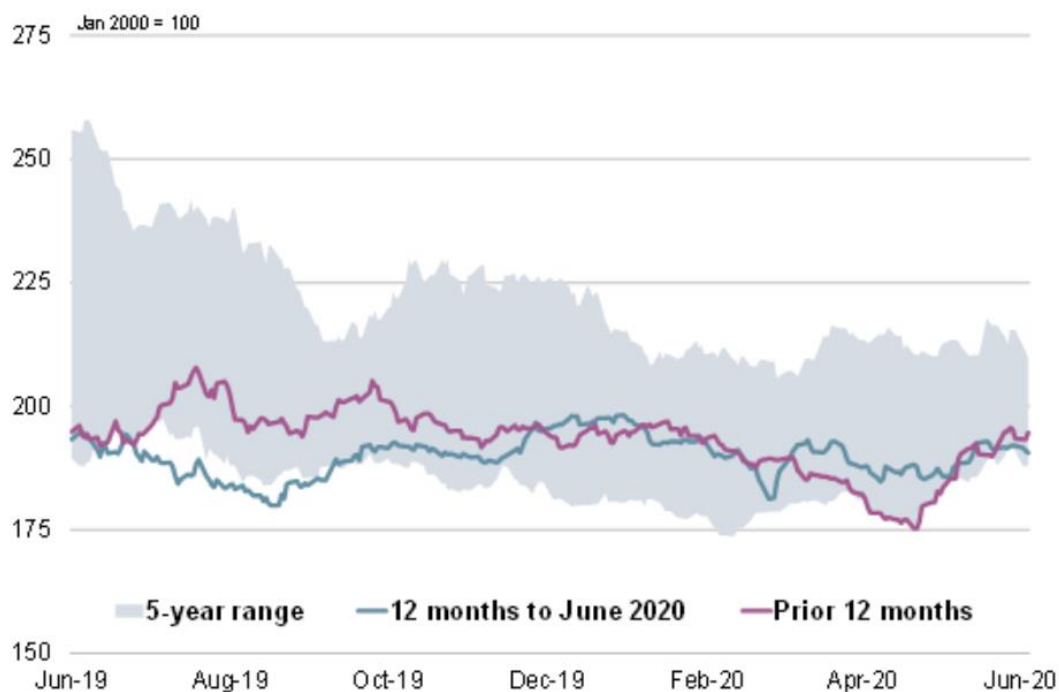


(出典) FAO Locust Watch

<http://www.fao.org/ag/locusts/en/info/info/index.html>

図2 穀物価格指数

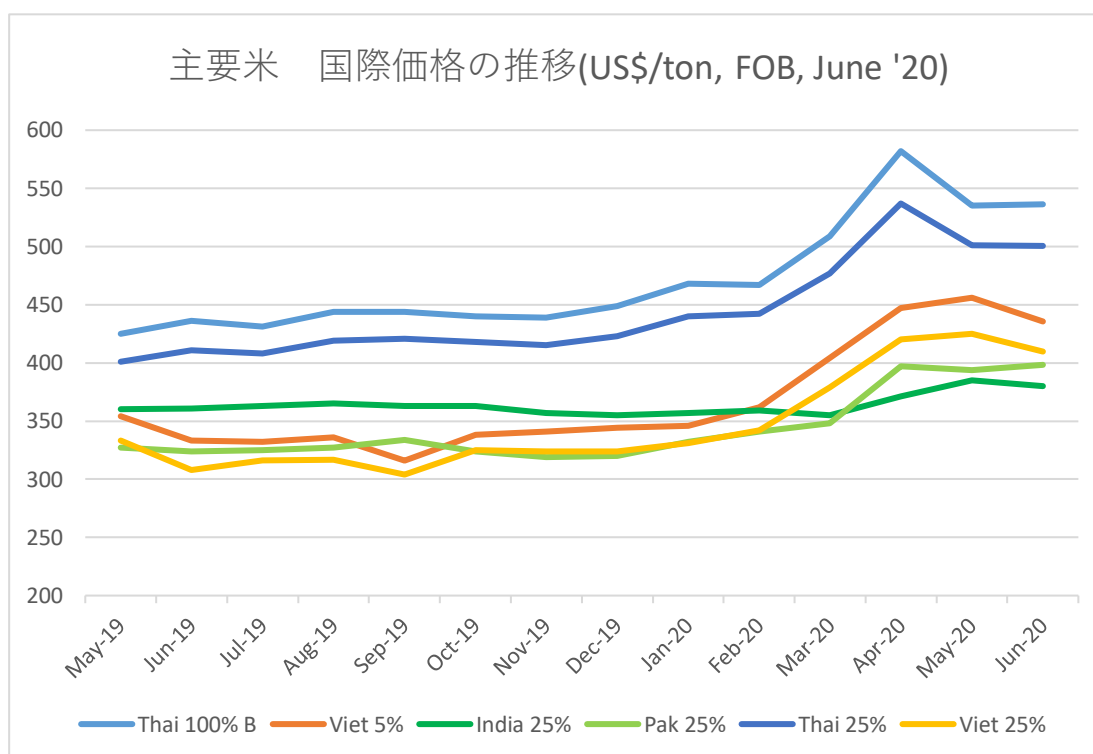
2. IGC Grains & Oilseeds Index (GOI)



(出典) ICG Grain Market Report (25 June 2020)

https://www.igc.int/en/gmr_summary.aspx

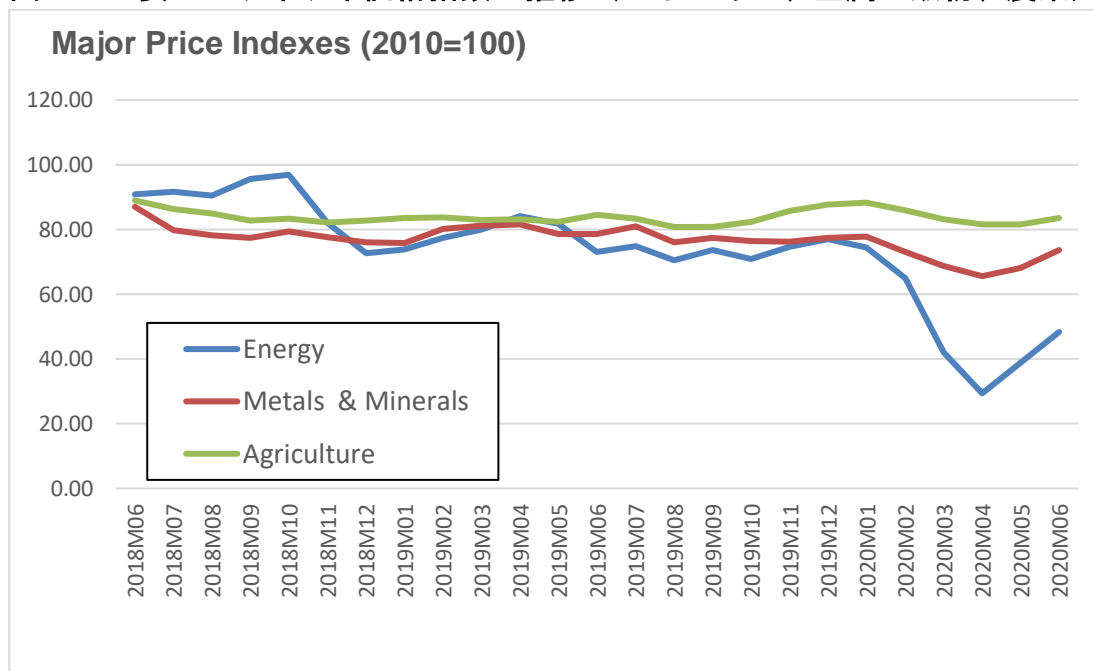
図3 米（主要国）の国際価格の推移



(出典) FAO Rice Price Update (July 2020)

<http://www.fao.org/economic/est/publications/rice-publications/the-fao-rice-price-update/en/>

図4 主要コモディティ価格指数の推移（エネルギー、金属・鉱物、農業）



(出典) World Bank Commodities Price Data (02 July 2020)

<http://pubdocs.worldbank.org/en/722721593705473133/CMO-Pink-Sheet-July-2020.pdf>

スライド1：COVID-19による農業分野の影響調査（質問票の分析）



農業活動への影響

- 農業活動への影響は**72%**が「ある」と回答し、全ての国で強い傾向が見られる。
- 生産量は**44%**が「減少している」と回答し、全ての国で傾向が見られる。
- 工程別にみると「マーケティング」に最も強い傾向が表れている（**52%**）。
- 農業活動に影響を及ぼした原因は「移動制限」の割合が高く、「マーケットアクセス」と「農業投入財」は強い傾向を示す国もある一方で、全体的には小～中程度の傾向である。

農業活動に影響を及ぼした原因	要因	想定される影響	
マーケットアクセス	仲買の不在、需要の減少、マーケットの閉鎖、ファームゲート価格の減少	所得の減少	全体の42%が回答し、多くの国では小～中程度の傾向である。
移動制限	政府による外出制限、集会の禁止	サービス(物品・指導・買取)へのアクセス減少	全体の75%が回答し、ほとんどの国で強い傾向が見られる。
農業投入財	農業投入財の価格上昇、サプライチェーンの混乱、店やマーケットの閉鎖、労働力不足	投入量の減少	全体の41%が回答し、多くの国では小～中程度の傾向である。

1



次期作への影響

- 次期作への影響は**69%**が「ある」と回答し、ほぼ全ての国に傾向が見られる。
- 次期作に影響を及ぼす原因は「移動制限」と「所得/生計」の割合が比較的高い傾向を示している。

次期作に影響を及ぼす原因	要因	想定される影響	
移動制限	政府による外出制限、集会の禁止	サービス(物品・指導・買取・労働力供給)へのアクセス減少	全体の58%が回答し、多くの国で中～強い傾向が見られる。
農業投入財	種子/農薬/肥料の不足、種子/農薬/肥料の価格上昇、店の閉鎖	次期作付けへの投入量の減少	全体の47%が回答し、数か国では強い傾向が見られる。
労働力	移動制限、労働力不足	耕作面積の減少	全体の37%が回答し、ほとんどの国で小～中程度の傾向が見られる。
所得/生計	所得減少	次期作付けの資金不足	全体の58%が回答し、多くの国で中～強い傾向が見られる。

2



食糧価格への影響

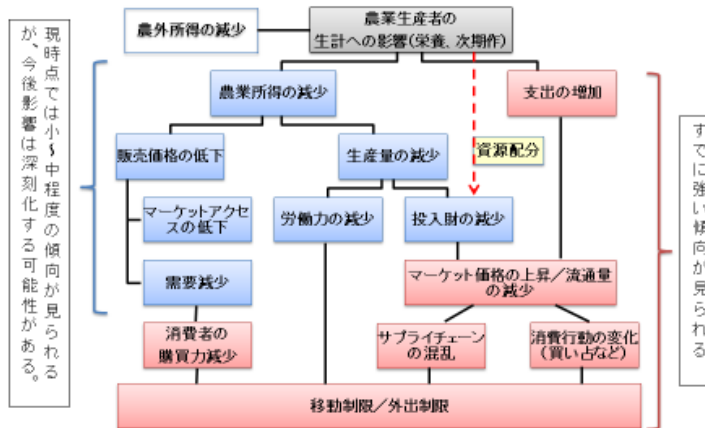
- ファームゲート(販売)価格の減少は強い傾向が見られないが、マーケット(購入)価格の上昇および流通量の減少には強い傾向が表れている。

	要因	想定される影響	
ファームゲート価格の減少	市場需要の減少、輸送ロジへの影響によるロス増大	所得の減少	販売価格が減少したと回答した割合は12～18%と低かった一方、保存できない生鮮食品は比較的高い傾向を示した。(27%)
マーケット価格の上昇	主食 輸送ロジ(労働力不足・店舗閉鎖など)への影響による供給量減少、消費者の買い溜め、中間業者の買占め	栄養不良(エネルギー不足) 栄養不良(バランス不良)	全ての国において、品物のマーケット価格の上昇に強い傾向を示している。
	生鮮食料品 投入財	次期作付けへの投入量の減少	
入手可能性の減少	主食 輸送ロジ(労働力不足・店舗閉鎖など)への影響による供給量減少、消費者の買い溜め、中間業者の買占め	栄養不良(エネルギー不足) 栄養不良(バランス不良)	全ての国において、品物の流通量の減少に強い傾向を示している。
	生鮮食品	感染リスクの上昇	
	医療品/衛生用品 投入財	次期作付けへの投入量の減少	

- 世帯収入は89%が「減少した」と回答し、全ての国で強い傾向が見られた。
- 収入減少による食生活への影響は、59%が「食事の回数が減った」と回答した。
- これらの人々は今後栄養状態が悪化する可能性がある。

	要因	想定される影響	
食生活への影響	価格上昇、収入減少、(生産農家の場合)生産栄養不良量の減少		59%が食事の回数が減ったと回答し、多くの国で強い傾向が見られる。

4



5